

2

将来設計(キャリアプラン)と準備について

進路希望..... 20

民間企業が最多数、一部で資格への憧憬

「民間企業」希望 全体：39.5%、4年：55.5%

進路先..... 22

進路決定のプロセスと進路に関する不安

進路未定 1年：15.8% → 4年：5.1%、公務員希望者などは同期間で半減

将来について..... 24

大学への期待、将来に向けての準備

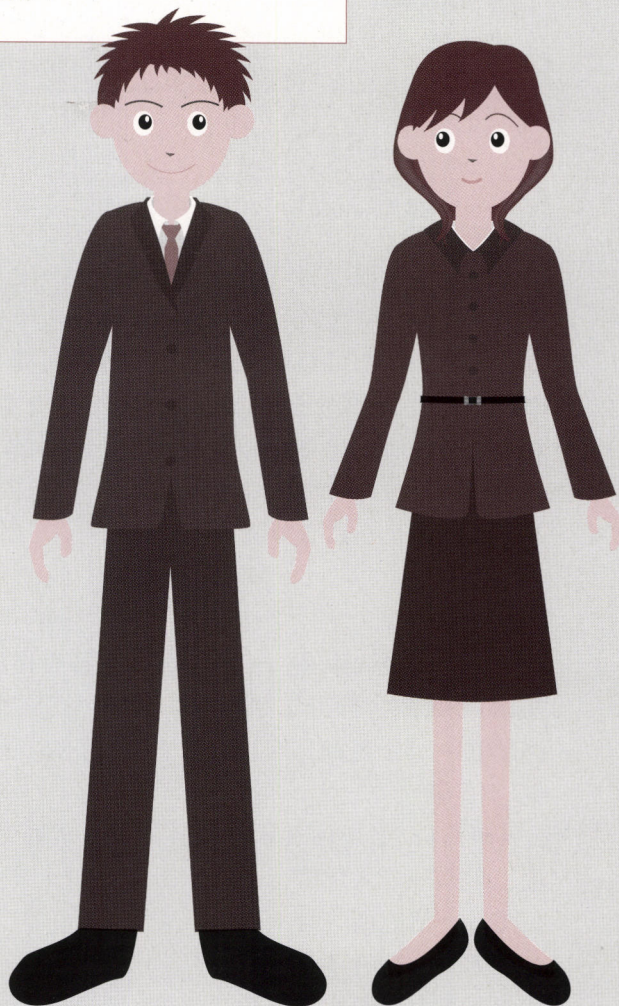
38.0%がキャリアプラン設定のアドバイスを求めている；

インターンシップへの参加 1年 → 1.4% 3年 → 7.8%

インターンシップ..... 26

インターンシップの課題

なぜ「教員」を目指す学生は積極的にインターンシップに参加しないのか？





民間企業が最多数、 一部で資格への憧憬

進路希望

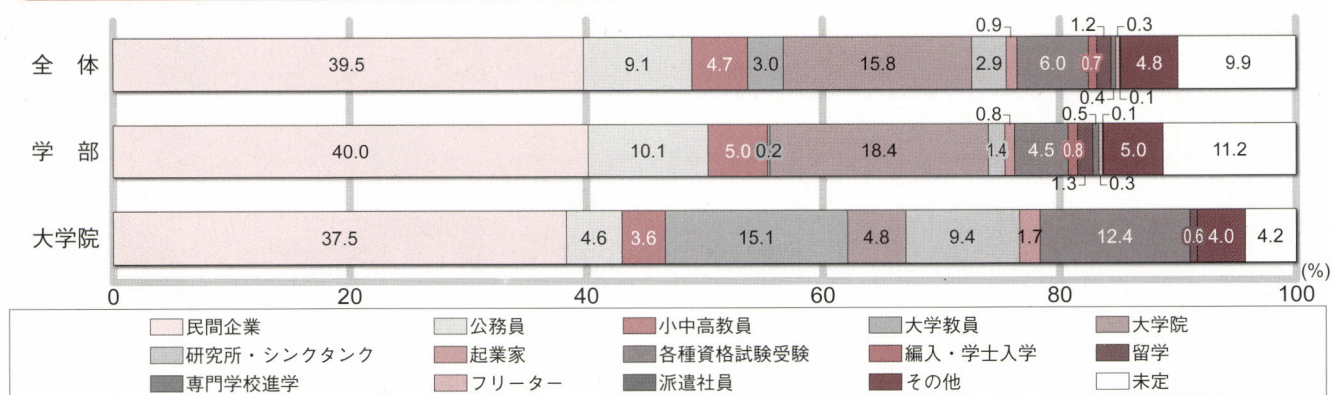
POINT

「民間企業」希望 全体：**39.5%**、4年：**55.5%**

グラフには示していませんが、学部・研究科卒業後の進路内訳は、時系列的に見て、ここ数年あまり大きな変化は見られませんでした。大まかには、毎年40%前後が「民間企業」への就職を希望しており、最も大きな割合を占めています。そのほかの進路としては、毎年9%前後が公務員（06年度においては7.8%と減少の兆しを見せたが今

年は従来のトレンドに戻りつつある）、15%前後が「大学院」への進学、そして7%前後が「大学教員」も含めた教員を目指しています。「各種資格試験受験」に関しては、今年度は6.0%となっており、これまで7%前後で推移してきたことを考えれば、若干の減少傾向となっています。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？



一方、学部・研究科卒業後の進路内訳を学部間および研究科間で比較すると、相当のばらつきがあることが一見してわかります。一般に民間企業への就職が主流であるということが前提ですが、それ以外の統計的に意味のある差異をもとに、学部や研究科学生の特徴的なキャリアパスをまとめると、以下のようになります。

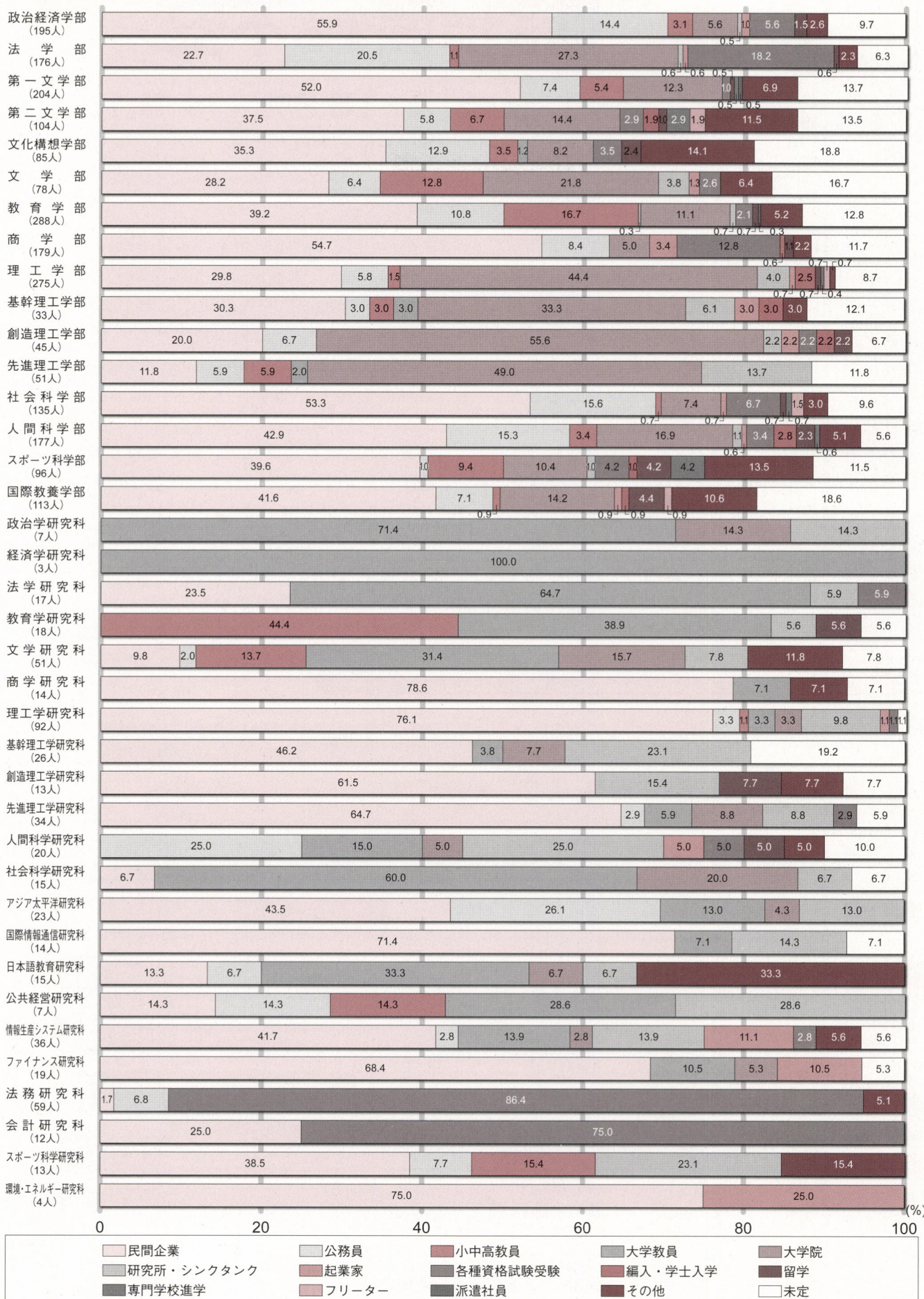
- ・政治経済学部・第一文学部→「民間企業」
- ・商学部→「民間企業」もしくは「各種資格試験受験」（公認会計士など）
- ・法学部→「公務員」もしくは「各種資格試験受験」（弁護士など）
- ・法務研究科・会計研究科→「各種資格試験受験」
- ・理工学系→「大学院」を経由し「民間企業」もしくは「研究所・シンクタンク」
- ・多くの大学院→「大学教員」
- ・文学部・文学研究科、教育学部・教育学研究科

→「小中高教員」

- ・商学部、情報生産システム研究科、ファイナンス研究科、留学生一般→「起業家」（絶対数としては多数ではない）

この特徴をあらためて眺めると、日本における資格試験への強い憧憬が読みとれます。自由記述からのデータをもとに、資格試験へのモチベーションを抽出すると、安定、社会貢献、自分で物事を決めたい、金銭的にもうかる、などが浮かび上がってきます。これは日本の現状にいかに対応するかという視点からは、かなり現実的な選択がなされているということが言えると思います。一方、今後の大学におけるキャリア教育においては、これらの職業の「面白さ」と「つまらなさ」を比較検討できるような情報を伝えていく必要があります。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 所属箇所別





進路決定のプロセスと 進路に関する不安

進路先

POINT

進路未定 1年：**15.8%** → 4年：**5.1%**、
公務員希望者などは同期間で半減

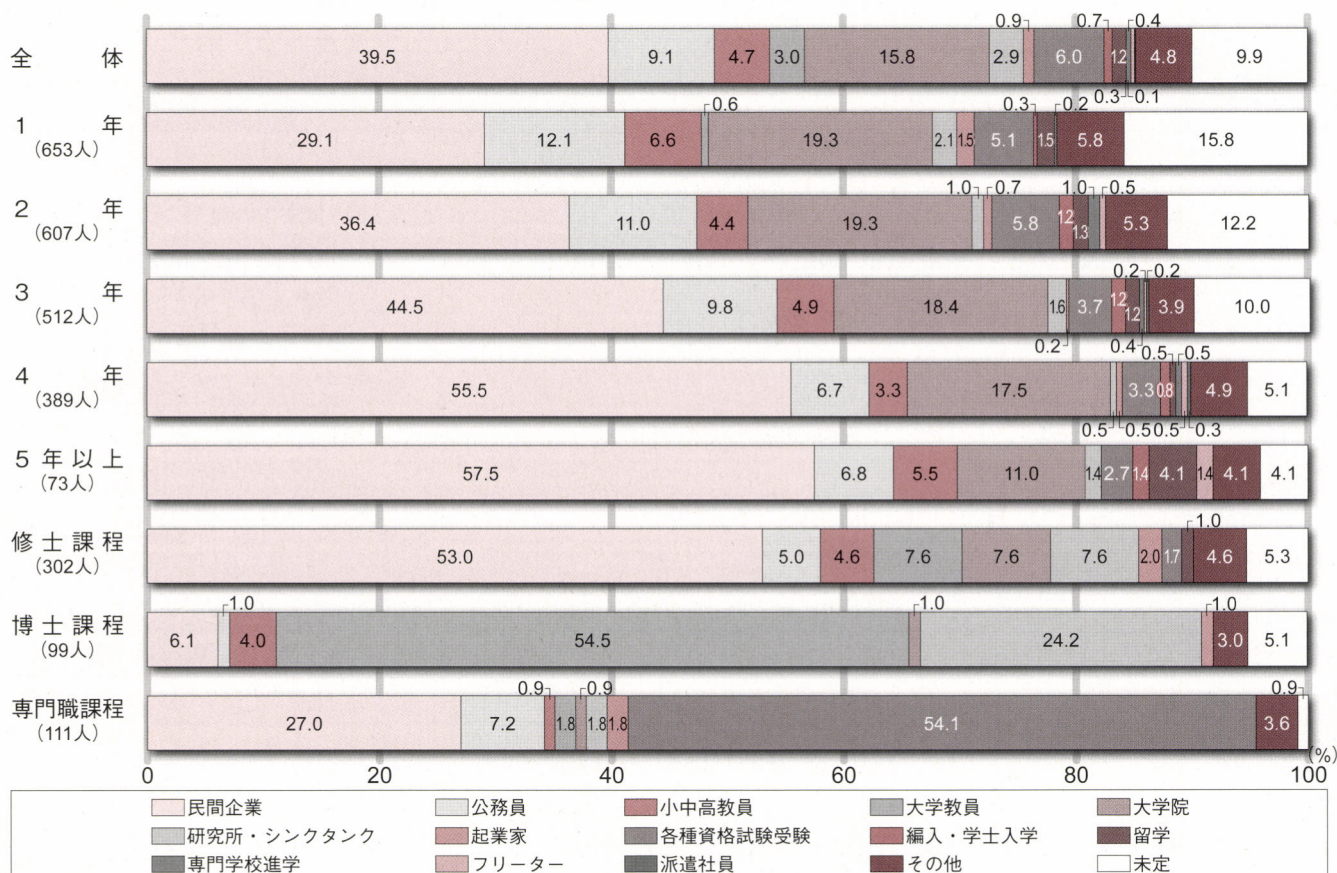
グラフには示していませんが、学部学生のうち「小中高教員」を目指す学生は、中学校を卒業するころまでに進路を決定する割合が全体と比較して高くなっていました。両親もしくは、どちらかが教員であるケースも多いと考えられますが、際立った傾向です。一方、以下のグラフで明らかのように、4年生の55.5%が最終的に「民間企業」を進路として選択していますが、この方向性は学部において学年が上がるにつれ固まっていきます。

また、1年生で「未定」とした学生が15.8%いるのに対し、4年生ではこの比率は5.1%へ顕著に減少しています。入学時に確固たる目的意識を持っていない学生の多くは、最終的に「民間企業」という進路を選択しているようです。また、1年

生から4年生へと学年が上がるにつれ、「公務員」、「小中高教員」、「各種資格試験受験」といったキャリアパスを目指す人の比率もおおよそ半減し、「民間企業」という選択に変化しているようです。

4年生時点で、「公務員」を希望する比率は6.7%となっています。グラフには示していませんが、同比率が7.6%（06年度）、7.3%（05年度）であったことを考えれば、一時的な現象である可能性もありますが、昨今の政治経済の情勢のなかで、公務員を志望する人の比率は減少のトレンドにあるのかも知れません。一方、「小中高教員」を目指す人の比率は、4年生時点で3.3%となっており、過去2年間の2.0%（06年度）、1.4%（05年度）という減少トレンドが反転し始めました。

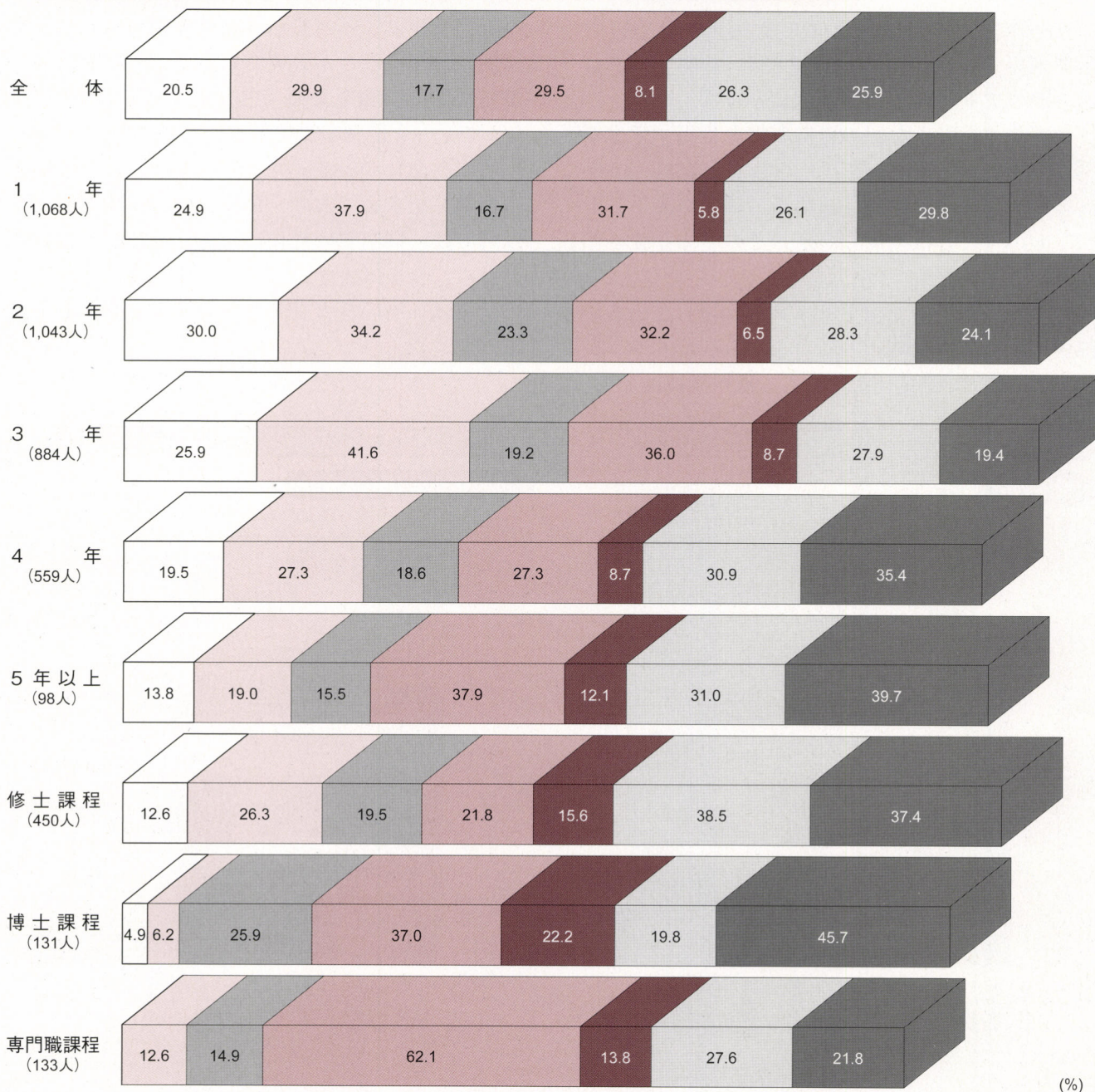
学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 学年別



博士課程、専門職課程においては、卒業後の確固たる目的（ビジネスプロフェッショナルとしてのMBA、各種資格試験、大学教員など）を決定したうえで入学をしていることが、22ページグラフからも明らかです。一方、進路先への不安として、学部在学中においては、学年が上がるにつれ「やりたいことが見つからない」学生の比率が減少する一方で、「進路先でやりたいことができるか分からない」といった不安を感じ始めるようです。

グラフには示していませんが、法学部、法務研究科、会計研究科の学生、そして公務員・各種資格試験のキャリアを目指している学生が、「志望する進路先に進む能力がない」点に、強い不安を感じていることから、学生は“資格試験に合格することができるか”が不安でしかたがないようです。また、商学部、理工学部、国際教養学部において、統計的に意味のあるレベルで、「やりたいことが見つからない」学生の比率が高いことが印象的でした。

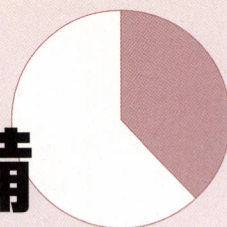
将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？ [複数回答可] 学年別



□ やりたいことが見つからない
 □ 志望する進路先の情報が少ない
 ■ 性別・年齢等、自分の能力以外の面で判断され選考に落ちる
 ■ 志望する進路で自活できるか心配
 ■ 志望する進路がしぼりきれない
 ■ 志望する進路先に進む能力がない
 ■ 進路先でやりたいことが出来るか分からない



大学への期待、 将来に向けての準備



将来について

POINT

38.0%がキャリアプラン設定のアドバイスを求めている；
インターンシップへの参加 1年→**1.4%** 3年→**7.8%**

学部や研究科、そしてどのようなキャリアパスを考えているかにかかわらず、多くの学生が、どのようにしてキャリアプランを設定すればいいのか（38.0%）、そして自己のキャリアのために大学で何をすればいいのか（28.8%）に関して、なんらかのアドバイスを期待しています。

弁護士、会計士などの資格取得を目指す学生が「資格情報」を求めると、そして公務員・中高教員を目指す学生が「公務員情報」を入手したがるということは当然であり、そのような強い傾向が表れています。

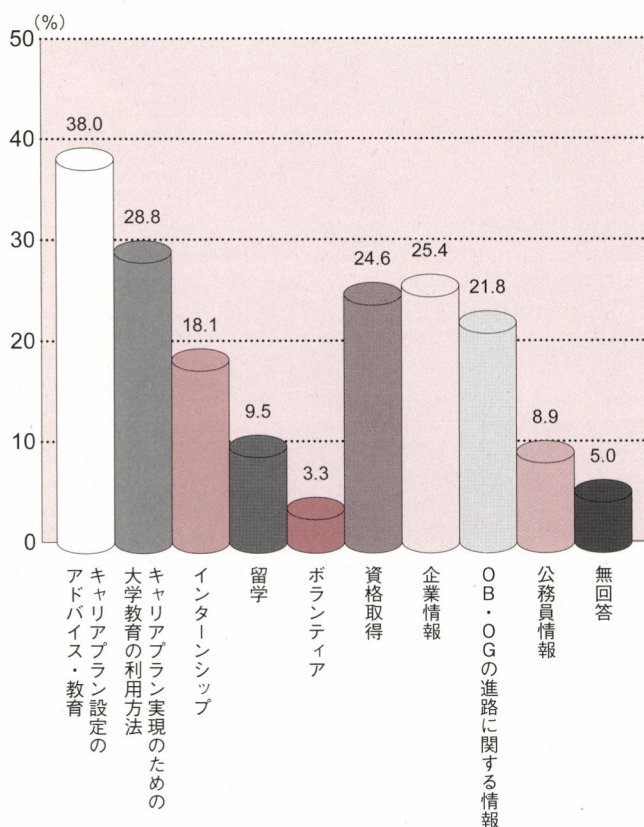
一方、民間企業でのキャリアを目指している学部学生が強く求めるサービスは、「インターンシップ」そして「企業情報」である点が特徴的です。

今年の調査において、4年生の55.5%が「民間企業」への就職を希望しているという事実から、大学にとって今後はインターンシップも含めた単なる情報提供にとどまらない就職情報サービスを提供していくことが必要でしょう。学生間で、各々が得た企業情報を交換できるようなインフラストラクチャーを構築することもいいアイデアです。

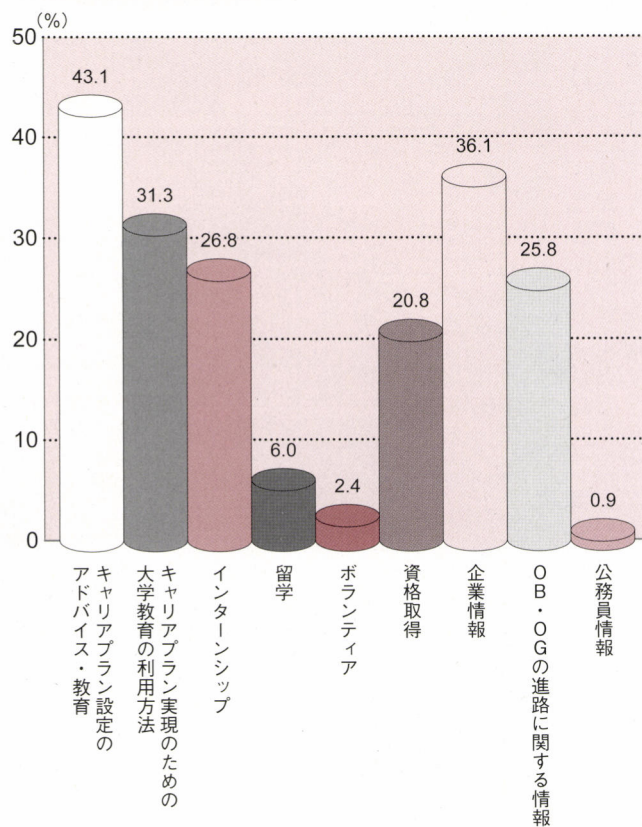
また、全体の21.8%が「OB・OGの進路に関する情報」を求めており、公務員の目指すグループ以外では、同情報の提供に対する期待感が高いことから、今後は大学としても卒業生ネットワークの構築に一層の経営資源を割いていく必要があります。

将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？ [複数回答可]

全体



民間企業志望（学部）



将来の設計に向けての準備を見てみますと、「語学修得」が35.7%、「学問・研究に励む」が55.1%と、他に比べ突出した比率を示しています。引き続き高い比率を示しているのが、「資格試験対策」と「課外活動の充実」の二つです。

また、将来の希望キャリアパス毎の統計的な差異に注目すれば、以下のように、力を入れる活動に濃淡が見られます。

「大学院」を志望している学生

→◎「学問研究」、×「企業研究・就職試験対策」

「民間企業」を志望している学生

→×「学問研究」、◎「企業研究・就職試験対策」、

○「課外活動」、○「インターンシップ」

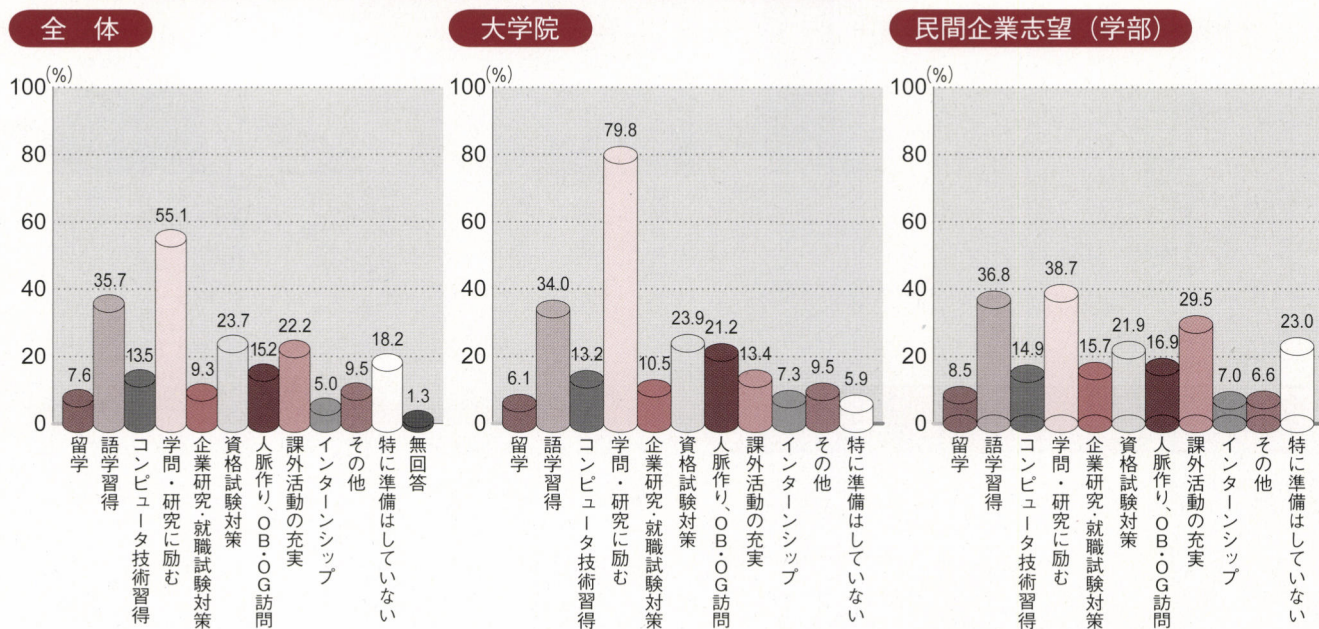
「民間企業」を希望する学生は、「企業研究・就職試験対策」や「インターンシップ」に関して、大学にも何らかの役割を期待する一方で、実際に

は自分たちで実行に移しています。これら準備の重要性が年ごとに増してきていることが推測されます。

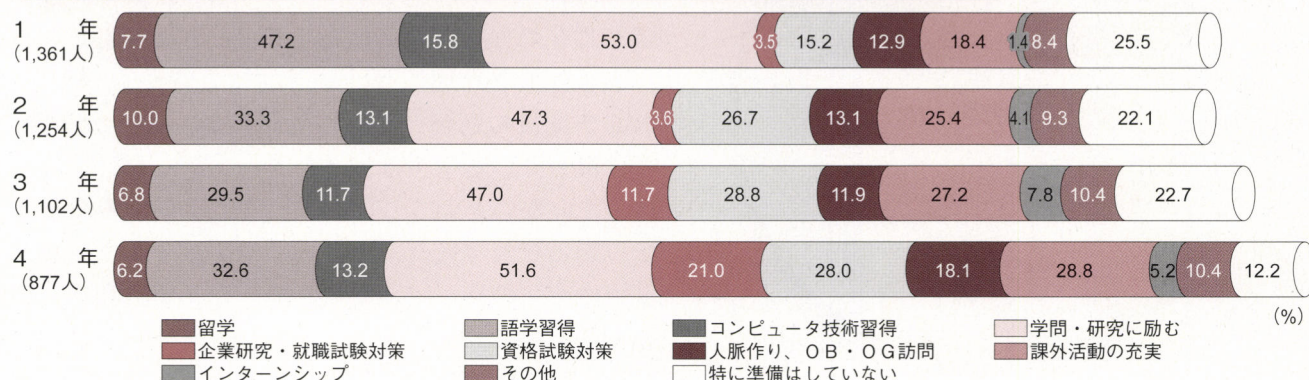
また、グラフには示していませんが、“大学生生活の充実”という視点からも、「充実している」と答えた学生は、将来に向けた準備として「人脈作り、OB・OG訪問」、そして「課外活動の充実」に多くの時間を割いているという統計結果が出ています。

次に学年別で将来のキャリアに向け、どのような準備をしているかを見てみましょう。1年生の主な活動は「語学の習得」(47.2%)ですが学年が進むにつれ減少してきます。一方、「インターンシップ」に関しては、3年生をピークに1年生の5倍以上の参加者比率となっています。つまり、学年が進むにつれ、学生の視点が“一般的な準備”から“実践的な準備”に変化していくと言えます。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数回答可]



将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数回答可] 学年別 (一部抜粋)





インターンシップの課題

インターンシップ

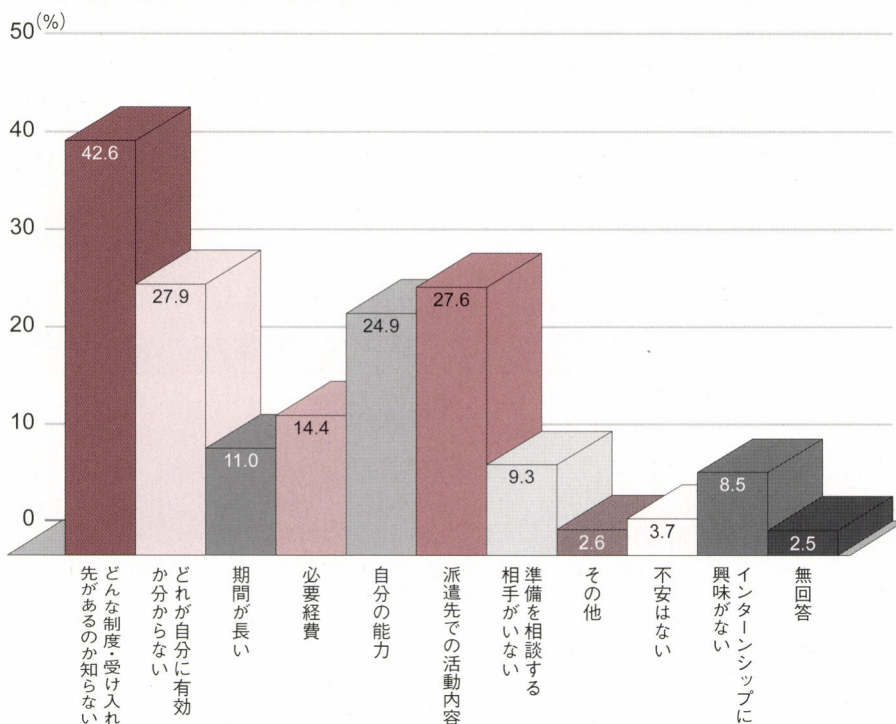
POINT

なぜ「教員」を目指す学生は積極的にインターンシップに参加しないのか？

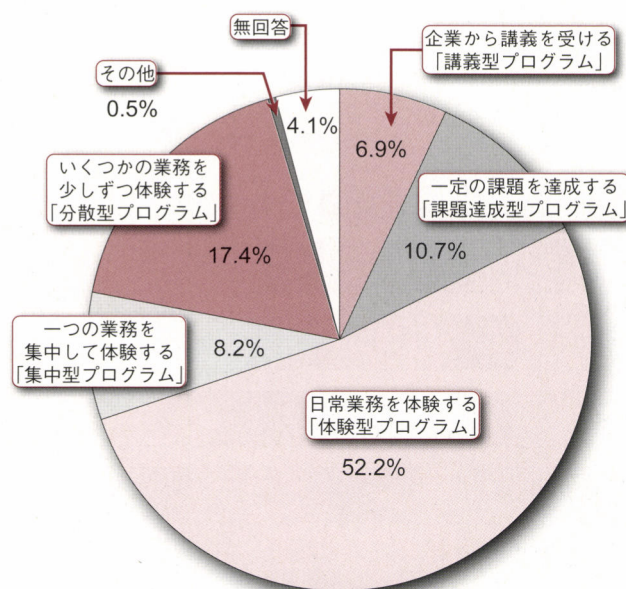
インターンシップに関して、学部、大学院を問わず、学生にとって最も大きな問題となっているのは「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」(42.6%)という点です。一方、無回答も含めれば、およそ10%つまり10人に1人はインターンシップにさほど大きな興味を持っていないと判断できます。

また、学生がインターンシップに対して期待をしていることは、グラフからも明らかなように、日常業務を体験することを通して、「企業の現実」を知りたいということのようです。そのような情報が一般的には学生には不足しているという事実の裏返しでしょう。

インターンシップについて以下に挙げる点で不安になる・躊躇する要素はありますか？〔複数回答可〕



もしあなたがインターンシップを行うとすれば、以下のうちどのようなプログラムを希望しますか？

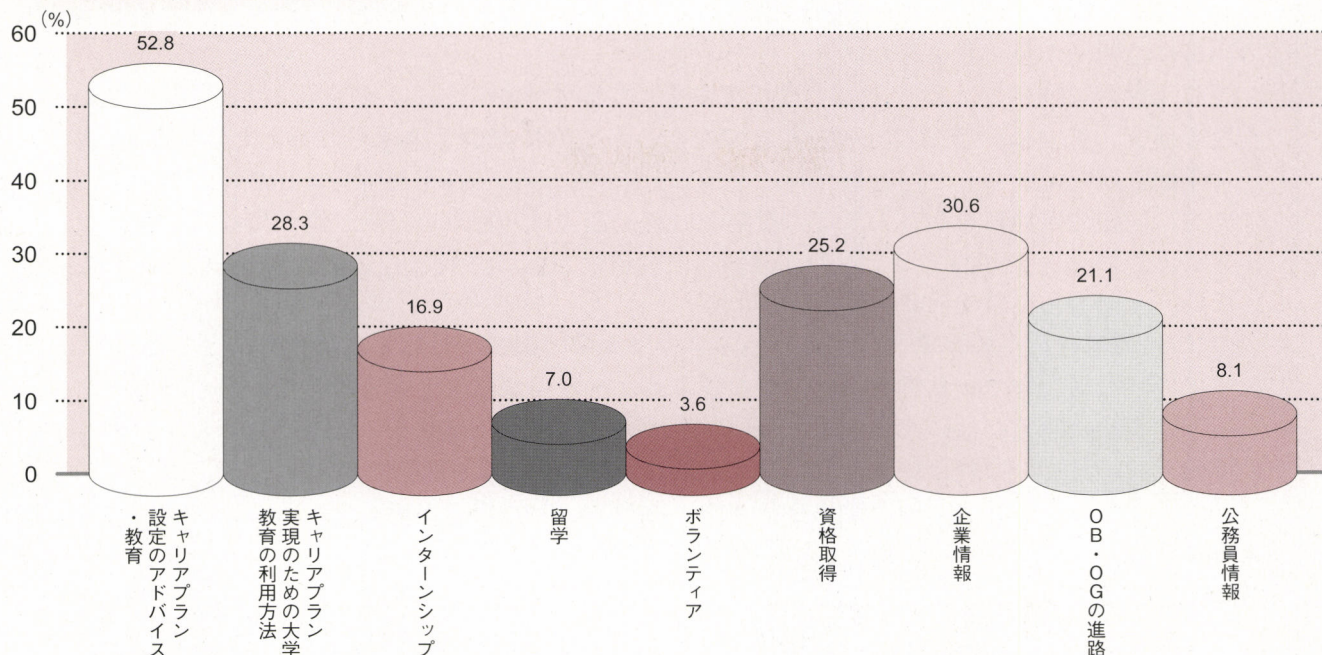


グラフには示していませんが、学年別の違いという点では、1年生・2年生においては「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」という点が約半数の学生の悩みとなっていました。一方、3年生・4年生になると、むしろインターンシップの「期間が長い」という点が問題となってきます。この点でも、大学生活の早いうちに、各自にとってどのようなインターンシップが適切か、という情報が大学・学生間で共有できるようにしなくてはなりません。

さらに大きな問題は、統計的に有意なレベルで、学部卒業後の進路として「大学教員」と「大学院」を目指している学生は、インターンシップに興味を持っていないということです。また、研究科学生も明らかに「大学教員」を目指す学生はインターンシップに興味を持っていませんでした。実社会への関心を強く抱くことなくして、「大学教員」を目指していくような姿勢には危惧を感じます。

クロス集計 将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？〔複数回答可〕、
 凡例 将来の進路についてどのようなことが不安になりますか〔複数回答可〕 (一部抜粋)

やりたいことが見つからない

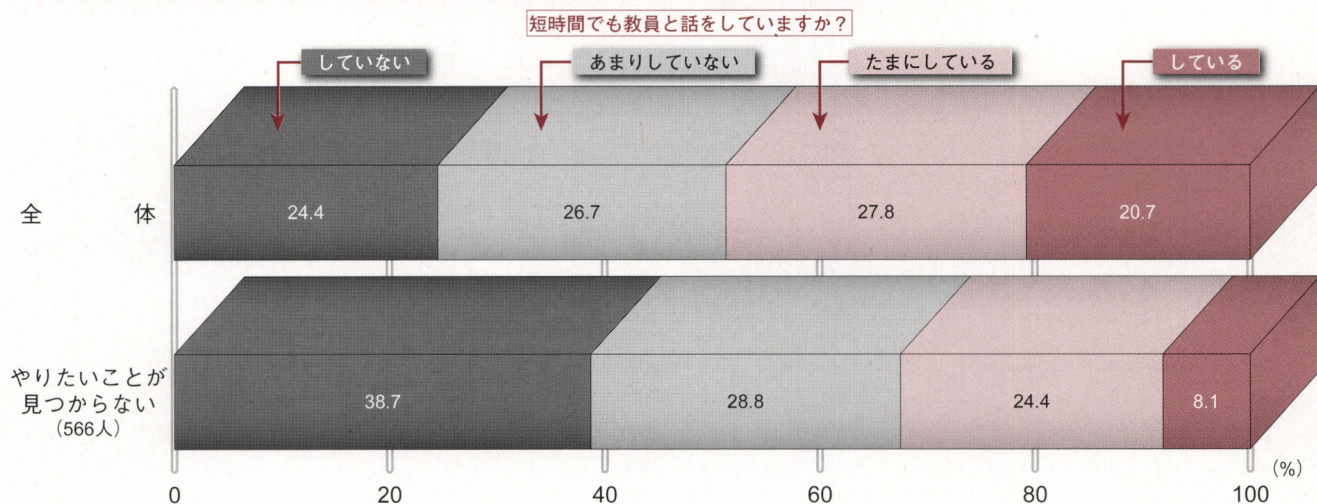


現実を振り返れば、非常に多くの学生が、自分のやりたいことが見つからずに困っていて、なんらかのアドバイスを求めています。グラフには示していませんが、こういった不安をかかえている学生は、将来に向けての準備として、まず「コンピュータ技術の習得」を目指しているようでした。実社会でのインターンシップを学年の早いうちに体験してみたらどうか、などのアドバイスが必用だと思われます。何らかの新たな判断材料が得られるはずです。

また、このタイプの学生は、短時間でさえも教員と話をしていません。「していない」(38.7%)と、

「余りしていない」(28.8%)を合わせれば67.5%の学生が教員とほとんどコミュニケーションを取っていないことになります。なぜなのでしょう。単に機会がないというだけでは全てを説明できそうにもありません。学生の視点から見て、教員に相談してもあまり価値がないという判断が働いている可能性も当然否定できません。これから教員というキャリアを目指す学生の方々は、少なくともインターンシップなどを通して、実社会に積極的にアプローチし、ある程度はプラグマティック（実用主義的）な価値も追求していこうとするマインド・セットを醸成する必要があると言えそうです。

クロス集計 将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？〔複数回答可〕
 凡例 短時間でも教員と話をしてしていますか？ (一部抜粋)



将来設計と大学での学問、研究活動には相関関係がある

将来設計に向けての準備状況を尋ねた質問と、大学での勉強が将来役に立つか？との質問への回答には相関が見られました。

「将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？」との質問に対し、「大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思う」と答えた学生の72.8%が「学問、研究に励む」と回答し「特に準備はしていない」と答えた学生は10.2%でした。

一方、同様の質問に対し「大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思わない」と答えた学生の「学問、研究に励む」の回答は18.2%で「特に準備はしていない」と回答した学生は40.9%でした。

つまり、将来設計への準備をすすめている学生は大学の勉強に対して有用性を見出しており、大学での学習機会をキャリアアップにつなげようとする姿が見えてきます。

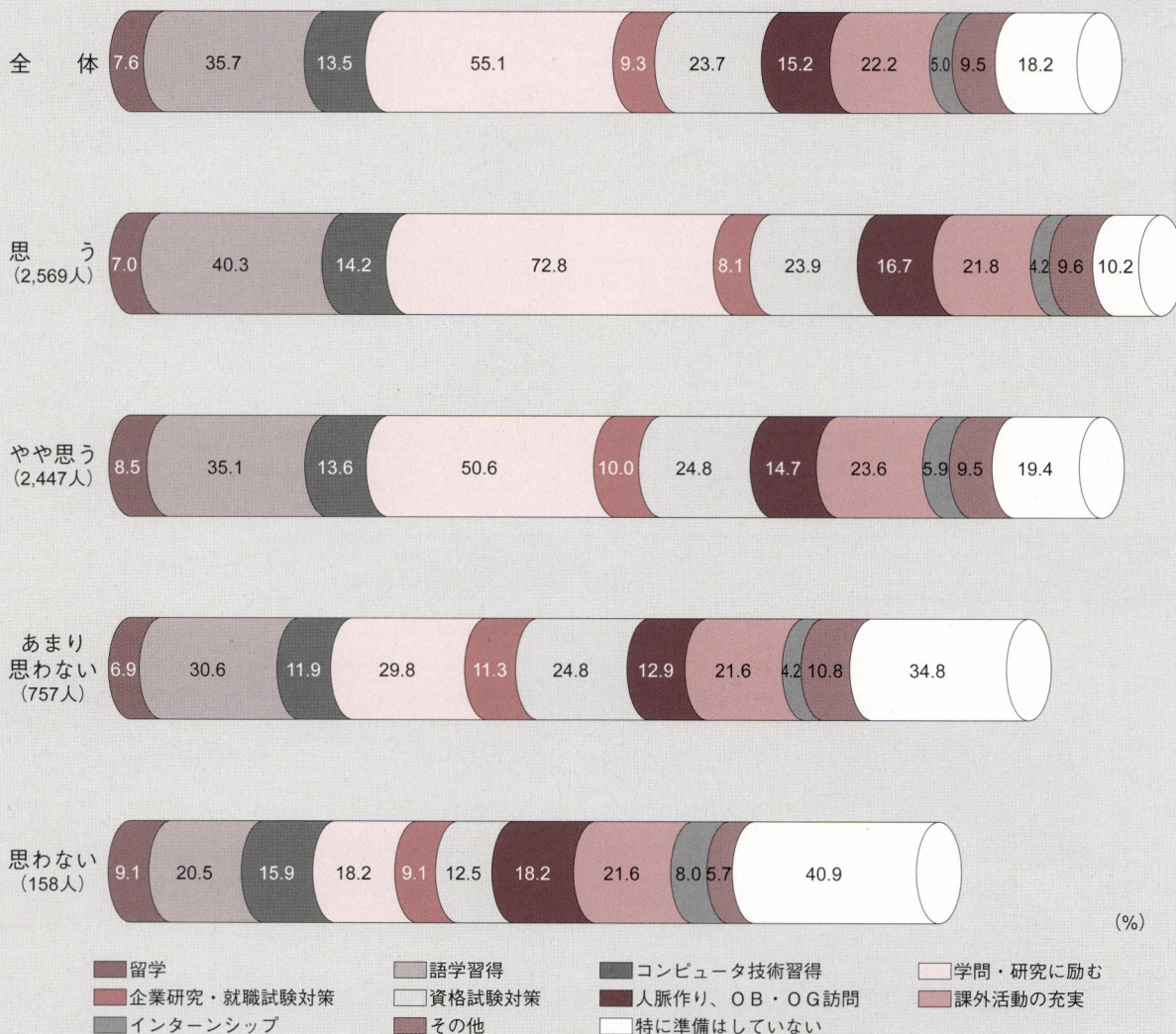
一方、大学の勉強が役に立つと思わない学生は、有用性が見出せないにもかかわらず将来への準備を特にしていないというモラトリアム的な実態が見えます。

このようなモラトリアム的な学生をひきつける授業、学習環境の充実を図ることが重要と考えられます。

クロス
集計

大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？

／凡例 将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数回答可]



(%)